**1月16 日　株式会社　ネオラボ　取締役社長　COO　大川　智弘　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

大川氏が社長を務められているネオラボの事業内容は非常に新鮮に感じました。オフショアビジネスに関するご説明がありましたが、その存在や現状に対する知識がなかった私自身にとって興味深く思ったと同時に、その性格上海外進出を比較的積極的に行うことができることが印象的でした。また、社内ベンチャーの特性に関して仰っていましたが、私自身この授業で創業者、起業家の方のお話をお聞きしていたので大変有意義に感じました。とりわけ「信用創造の時間短縮」という社内ベンチャーの長所が大きいポイントであると理解しており、資金調達を依頼するにあたってかかる時間的コストと比較すれば、事業スタートまでのスピード感を大幅にあげることが可能であると思いました。さらに創業期と成長期に分けたマネジメントが重要であるということも新たな発見でした。「成果を出す組織づくり」のために何をどうしていくかを出発点としてマネジメントしていくことの重要さが分かりました。 (経営学部 1年)

ベンチャー企業が早い段階で資本を拡大する際には、ヒトとの関わりも大切であるが、これからは情報との上手な付き合い方がポイントになるということに対し、AIとの接し方で（驚異的な情報メディアの進化）企業の成長にも関わる時代も近くやってくるのではないかと感じた。学生という身分を上手に活用して教養を身につけたり社会の人と対話することは将来の自らのキャリア形成に対してとても効果的だと今.感じた。（理.学部数物電.情報学科２年）

行動力がすごいなって思った。前回と言い、上司、社長の印象に残る行動を起こすことによって権力者の目に留まり、企業内の子会社とはいえ社長になる。そのような社長になる道が良くあることだとは思わなかった。自由度は制限されるのかもしれないが、システムがすでに確立していたり、いい部分も多そうだと思った。理工の先輩でベンチャー企業に就職した人がいたのだが、どういう経緯か聞けばよかった。ベンチャーに勤めることが人生の成功につながるかはわからないが、友人関係が広いことはそういう得もあるということが分かった。校友会やOB会に入会したり会合に参加したりするのもいいなと思った。何事も突き詰めれば行動力。引きこもって一人で趣味に没頭し続けるだけではダメだと思った。これからの生を改めていきたいと思った。（理工学部　化学生命3年）

人生のテーマ設計と修正をもっと早く習慣化が成果を出すためのルーティーンになるという話が印象的でした。かなり自分にとって空白の時間（思い返しても何をやっていたかわからない）があるのでそこを改善していけたらなと思いました。オフショアリングするうえで経済格差が大きいという条件がありましたがどうしてですか？（経営学部　1年）

0→1を生み出す創業時のメンバーと、1→100を生み出す成長期のメンバーは全く異なる人種であるという言葉が印象的でした。成果を出すためには組織づくりが重要であるというのは当然であると思いますが、今までの人生を振り返ると、他人を協力して何か大きなことを成し遂げる機会が少なかったため、組織の重要性を感じた経験がほとんどありませんでした。しかし、おっしゃるように一人の人間ができることには限界があるため、他人から力を借りないと乗り越えられない壁が立ちはだかることが時にはあると思うので人との関係を大事にしていくことを心がけたいです。（理工学部　数物電子情報　３年）

オフショアビジネスの発展には、１、タイムゾーンが近い、２、経済格差が大きいという昔のＩＴの考え方とは異なり、東西で行うよりも、南北で行うことが効果的であるということを学びました。また、社内ベンチャーの特性として、生活への心理的安全性と信用創造の時間短縮、意思決定時に考慮すべき関係者の多さという３つを挙げられ、とても分かりやすかったです。　（経営学部　経営学科　２年）

会社を辞めて起業するのではなく社内で起業することの特性を学ぶことができ、前回の講義からの知識がほとんど無かった最初の時期は、起業と今いる会社を辞めてするものでしかないと考えていたけれど、今回の講義で社内ベンチャーの特性や強み、仕組みが分かった。また、起業時のメンバーや親会社とのやり取りなど、人と人とのつながりに関する話が想像以上に多いと感じ、企業や経営には人どうしのつながりはほとんどない、薄いと思っていた固定観が間違いだったのだと気づいた。最後に「大川さんが大学生に戻るとしたら何をするか」の４項目が本当にその通りだなと感じ、経営する側がこのようなことを考えるところがベンチャーの強みになったのだと感じた。（教育学部　学校教育課程学科　１年）

社内ベンチャーのメリット・デメリットがすごくよく分かりました。その中でもやはり、“信用創造の時間短縮”というのはすごく大きなメリットなのだなという風に感じました。できたばかりのベンチャー企業では銀行の口座を作るのも難しいというお話には驚きました。また、創業メンバーの選び方が重要だというお話はとても興味深かった。0から1を生み出すのに向いているのか、1を10や100に増やしていくのに向いているのか、それぞれ人種が違うというようなお話をされていましたが、確かに必要な能力も違うし、経験なども関係してくるし、向き不向きがあるという話はとても納得がいきました。本日は素敵な講演をありがとうございました。(経営学部 経営学科 1年)

私は高校生の頃から、地元で起業して健全な労働環境を備えた会社づくりをしたいと考えていました。その頃から一番大事なことは「人の関わり」や「組織づくり」だと考えていたので、今日のお話を聞いていてとても参考になりました。また、大学生活で1番大事にしていることが「まずは動くこと」だったので、今日のお話はとても共感出来ました。大川さんもお話してくださったように、今だからこそ大手企業の方や地元の市役所の方、地域を支える大人の方々に会ってお話を聞くことができていると思っています。残りの3年間、悔いの残らないように、常に動いて考えていきたいと思いました。(経営学部 1年)

今回の講演の方は、学生時代の経歴が少し異色で、それは今までの講師の方にはなかったものであるため、非常に興味をもちました。また、大学での活動などの話を聞く限り、興味をもった方向に進んでいるのかなと思い、それを強く感じたのが、リクルート内定を切ったというエピソードでした。ここから、まず内定をもらったいい会社にずっといるという選択以外の行動もいくらでもとれて、それは必ずしも間違いではないということを学びました。また、学生時代にものを一から作り上げる経験をたくさんサークルやインターンでしており、それを確かな武器にしているような印象を受けました。また、創業時、成長期の人事についてのお話もありました。ここから、資金調達、経営戦略だけでなく、人を選ぶ能力というものが、組織を作る人間には必ず求められるのではないか、と思いました。（経済学部　1年）

本日の講義では企業が生き残るメソッドというものに重きを置いたお話がなされていた。この講義のテーマである「マネジメント」に再注目し、企業としてどう立ち回るべきか、少しばかり難解だったけど、改めて説明がなされており、良かった。「ベンチャー」の絡む企業形態は特殊なものだとも思えるけど、業界でサバイヴするための方法、マネジメントの仕方は汎用性があると感じた。子会社視点のお話で、良い意味で親会社を利用する、親会社の威を借るかのような立ち回りが提示されたとき、驚いた。使えるアドバンテージを余すことなく使うという意味で効率的で良いなと思った。「マネジメント＝人をどう動かすか」という視点も提示され、組織として成長する道程も会社経営のポイントとして挙げられていたのも良かった。大学生のうちにやっておくべきこともおまけとして提示されていたが、詳しくまとめられていたので、意識して実践していってみたいと思う。(経済学部　経済学科　1年)

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

成長率を130％以上に保つという課題を自ら設定し、何年間も連続で達成していてすごいと思った。課題設定力とそれに見合った実行力を付けていきたい。(経営学部　経営学科1年)

企業の経営は人と人のつながりも重要であると分かり、全てに通じることでもあると分かったので、今しかできない「今会える大人に会いに行く」「コミュニケーションの一挙一投足を大事にする」ことを意識していきたい。今までの大学生活ですでに少し後悔していることもあり、またこれからの人生で大切になっていくことであると感じた。自分が進みたい分野と経営の共通点を見出し、新しい視点を発見することができたので良かった。（教育学部　学校教育課程学科　１年）

①人生のテーマ設定と修正を早くに習慣化

②行動してから考えること徹底

③今しか会えない大人に会いに行く

この3点を心に留めて生活しようと思います。今は流れに身を任せて毎日生活してしまっているので。(経済学部　１年)

理系であるがドラッカーのマネジメントは研究効率を考える際にも活用できると以前から思っているので本の厚さに負けず読む。企業やマネジメントでは理論で統制できないことが多い。経験者からその経験を直接聞いて自らの教養として吸いこんでいきたい。（理.学部数物電.情報学科２年）

**授業スタッフの感想**

今回の大川氏の講演では、「よい組織づくり」が重要だということがわかりました。また、少人数の組織が成長する過程で、組織メンバーの中にリーダーの資質があるものを見出す必要があるということも納得しました。ドラッガーなどの経営学に関わる著作を読んで、理解を深め、経営課題に対して理論的な思考ができるようになりたいと思いました。　次回のサンクトガーレン取締役の中川氏の講演も楽しみです。ちょうど今日の新聞の地域面にサンクトガーレンのチョコビールの記事が出ていました。クラフトビールを厚木で作り始めた経緯や製品のアイデアをどう出すかなどのお話が聞けるといいなと思います。